

# 東北復興日記



135

今月から福島県いわき市に引越し、「いわきおてんとSUN企業組合」で働いています。会社ではいわき市産の綿糸を混紡したオーガニックコットン製品の営業をしつつ、被災地に学ぶ「スタディーツアー」のための観光農園の企画と整備も担当しています。出身は浪江町で両親は中通り在住です。大学入学

いわきおてんとSUN  
企業組合

松本幸子



## 地域支える基盤は農業

以前の福島暮らしで、「やっと帰ってきたな」と思っています。けれども「福島って人が住めるの?」と真顔で聞いてくる人はたまにいます。

必要なものは大体そろっています。他と違いたいくつかの点を、これからどう生かしていくかは、住んでいる私たちが次第だと思っています。

えて生きている人たちとたくさん会いました。私も福島で、そういうふうに住きたいなと思って、ここにいます。時の流れで変わったことも変わらないこともある福島で、世界を見ながら地に足をつけて、生きていきたいと思っています。

福島で仕事し生活する、というところが、もう少しフラットにとらえられる社会になればいいのに、いつも思っています。福島県は「普通」の人たちが暮らしている場所だからです。生活リスクがいくつかわずか増えたとはいっても、変化やリスクのない生活はどこでもありえないはず。変化やリスクの中に、特異なものがあるから注目されることはあるけれど、生きていくために

私はこれから、福島で農業をするつもりです。実家が農家だったし、地域を支え、基盤産業は農業だと思っからです。これから日本で農業をするのはとても大変なことだから、大学卒業後に入った会社をやめて、農業経営を学べる日本農業経営大学校であらためて勉強しました。在学中、いろいろな地域に行って、その地域を本当に愛して、考え抜いて、動き回って、肝を据

環境イベント「アースデイ 東京2015」(18~19日。代々木公園)で「ライフスタイル、循環型社会」部門に「リボン」のブースにて出展します。ぜひお立ち寄りください。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。